



「個」を強くする大学。
We strengthen the individual.



明治大学
MEIJI UNIVERSITY

『オープンバッジが変える私たちの学び』, 愛媛大学デジタル情報人材育成機構・愛媛大学教育・学生支援機構・愛媛大学マイクロレデンシャル研究グループ, 愛媛大学城北キャンパス, 2025年11月27日.

オープンバッジのメタデータ活用の実際 ～ メタデータを構造的に書く ～

Ver. 1.0 2025年11月27日

明治大学名誉教授 阪井和男

一般財団法人オープンバッジ・ネットワーク 大学WG主査

presen_EhimeU_OpenBadge_Sakai_20251127.pdf

https://drive.google.com/file/d/1KZRgdyAM_n7RDCmTCSB24UGicPHkIaIt/view?usp=sharing

略歴(2025年9月20日現在)



阪井和男 Kazuo Sakai
明治大学名誉教授(理学博士)
saka1kaz@yahoo.co.jp
facebook.com/saka1kaz

<研究テーマ>
組織と社会の死生学

<略歴>

1952年 和歌山県和歌山市生まれ
1971年 和歌山県立桐蔭高校卒業
1977年 東京理科大学理学部物理学科卒業
1979年 同大学院理学研究科修士課程物理学専攻修了
1985年 同大学院理学研究科博士課程物理学専攻退学
(6年間在籍)。ソフトハウスに勤務
1987年 理学博士(論文, 東京理科大学)取得
サイエンスライター(フリー)
1990年 明治大学法学部専任講師
1993年 明治大学法学部助教授
1998年 明治大法学部教授
2023年 明治大学名誉教授

<所属>

[サービス創新研究所](#) 所長
[明治大学医と法と倫理の研究センター](#) 客員研究員
[早稲田大学情報教育研究所](#) 招聘研究員

<公職等>

[日本ビジネス・コミュニケーション学会](#) 理事
[ドラッカー学会](#) フェロー
[情報コミュニケーション学会](#) 顧問
[電子情報通信学会 思考と言語研究会\(TL\)](#) 顧問
[芸術思考学会](#) 顧問
[アカデミック・コーチング学会](#) 顧問

<NPO等>

[一般社団法人 日本オープンオンライン教育推進協議会\(JMOOC\)](#) 理事
[NPO実務能力認定機構](#) 理事
[一般財団法人 オープンバッジ・ネットワーク](#) 理事
[一般社団法人 教育機関の情報環境構築と人材育成協議会](#) (通称:
ファーストスタープロジェクト) 理事
[一般財団法人 国際災害対策支援機構](#) 理事
[一般社団法人 CSスペシャリスト検定協会](#) 理事
[一般社団法人 つながり教育推進機構](#) 監事



目次と結論

- オープンバッジの発行戦略を解析する
 - 4象限モデル(主観評価)
 - 発行数と種類数(客観評価)
- 生成AIでメタデータを分析するために
 - オープンバッジのメタデータを構造的に書く
 - 構造はマイクロレデンショナル共通記述子を用いる
- メタデータの国際通用性を高めるために
 - メタデータ「説明」を書きすぎないこと
 - 英文でも表記すること
- まとめ
- 補遺:メタデータの実際
 - サイバー大学(A大学)(2024年第2回オープンバッジ大賞)
 - 日立ゴム工業株式会社(2025年第3回オープンバッジ大賞)



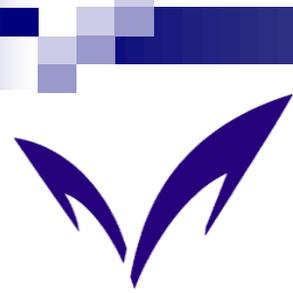
「個」を強くする大学。
We strengthen the individual.



明治大学
MEIJI UNIVERSITY

オープンバッジの発行戦略を 解析する

大学WGの参加大学を対象に

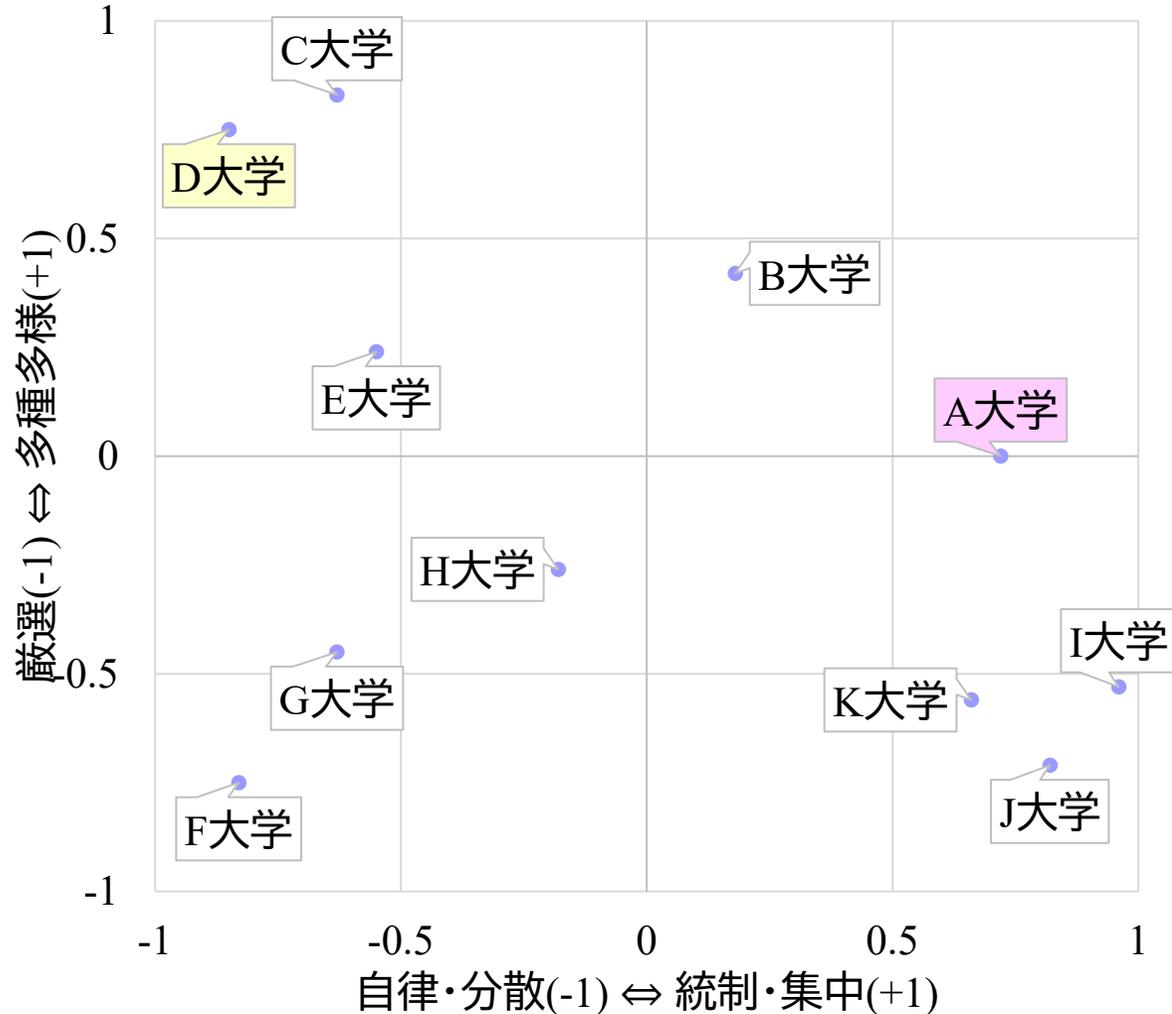


日本のオープンバッジ発行状況

- 日本の**発行状況**(2025年10月31日現在、(一財)オープンバッジ・ネットワーク)
 - オープンバッジ総発行数 208万
 - オープンバッジ種類数 1.7万種類
 - 会員数 373団体
- オープンバッジ**発行戦略の特徴**は？
 - 各部署で発行か、大学が厳格に管理か？
 - 特別なものに発行か、あれこれ発行か？

• 一般財団法人オープンバッジ・ネットワーク <https://www.openbadge.or.jp/> (2025年11月12日アクセス)

発行アプローチ戦略と4象限モデル(主観評価)



■ 4象限モデル

小宮路雅博(成城大学)氏が2024年に発案

- 一般財団法人オープンバッジ・ネットワーク主催の事例報告会(2024年8月8日)で発表

□ **横軸**: 自律・分散⇔統制・集中

- 自律・分散(各部署でそれぞれ発行)か、統制・集中(大学として厳格に管理)か

□ **縦軸**: 厳選⇔多種多様

- 厳選(特別なものだけに発行)か、多種多様(なるべくあれこれ発行)か

■ 4象限モデル(主観評価)(阪井, 2025a, p. 3)

□ 成城大学(D大学)の戦略

- 分散・自律型の発行体制で、各部門が自由にデザインし自由に発行(小宮路, 2024)

- 阪井 和男 (2025a), "2024年度大学ワーキンググループ報告書: オープンバッジの発行状況とメタデータ分析", 一般財団法人オープンバッジ・ネットワーク, 2025年3月31日.
- 小宮路 雅博 (2024), "導入事例: 成城大学", 一般財団法人オープンバッジ・ネットワーク, (更新: 2024年8月)2022年11月. https://www.openbadge.or.jp/case/case_detail/case_seijo.html (2025年3月11日アクセス)

オープンバッジの証明内容と認定レベル

■ オープンバッジの認定レベル(阪井, 2025a, 表3, p. 4)

認定レベル	証明内容	成績評価	説明
1	身分証	なし	発行機関に所属する身分証として発行
2	参加証		指定された活動への参加を証明
3	受講証		成績評価を伴わない活動の参加を証明
4	顕彰証		すぐれた活動にたいする顕彰を認定
5	修得証	あり	特定テーマの修得(科目より小さな1単位に満たない)
6	修了証		複数科目からなる科目群や副専攻などの修了

認定レベルはどうなっているか？

■ バッジ発行数と認定レベル(阪井, 2025a, 表4, p. 5)

認定レベル	身分証 1	参加証 2	受講証 3	顕彰証 4	修得証* 5	修了証* 6	計
L大学	0	0	0	0	80	80	160
M大学	0	0	0	0	0	1,403	1,403
D大学	168	358	893	371	0	798	2,588
K大学	0	0	0	132	0	3,606	3,738
A大学	0	0	102	0	0	8,516	8,618
F大学	0	0	0	0	0	1,588	1,588
N大学	0	0	0	0	0	414	414
計	168	358	995	503	80	14,403	16,507

*印は、成績評価あり

・ 阪井 和男 (2025a), “2024年度大学ワーキンググループ報告書: オープンバッジの発行状況とメタデータ分析”, 一般財団法人オープンバッジ・ネットワーク, 2025年3月31日.

発行種類数はどうなっているか？

■ オープンバッジ種類数と認定レベル(阪井, 2025a, 表5, p. 5)

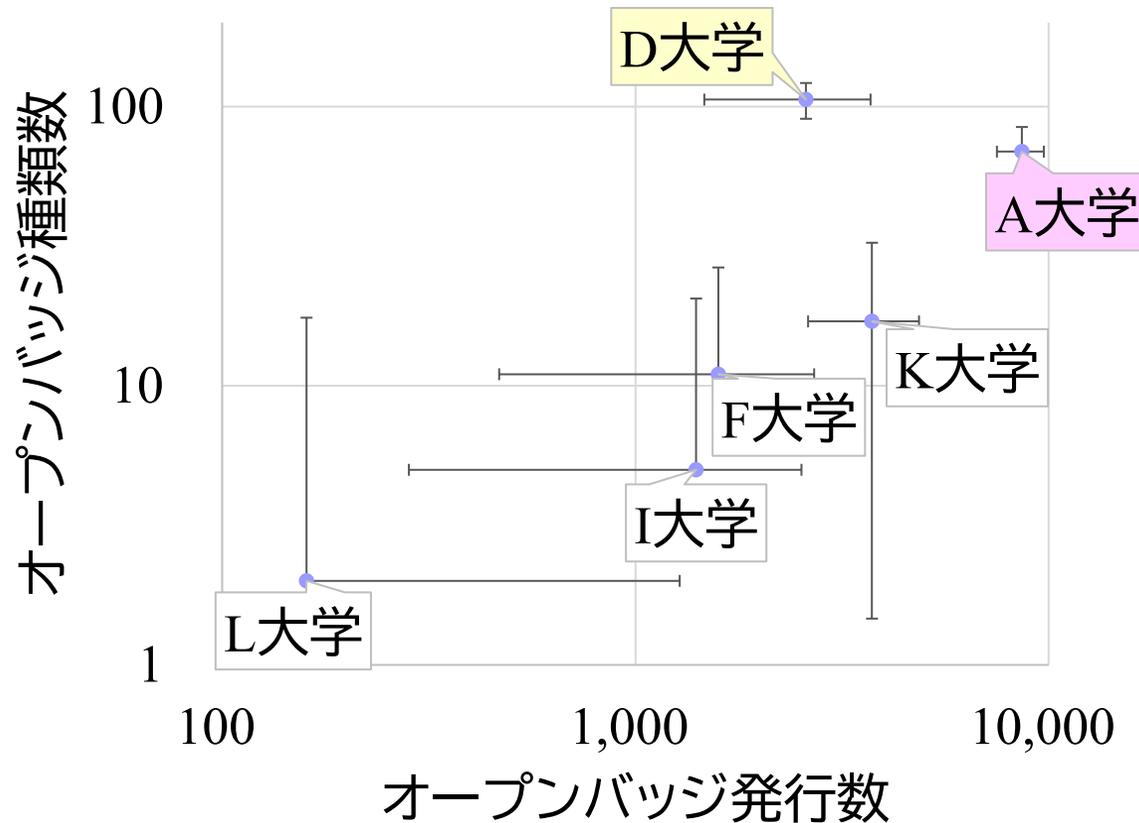
認定レベル	身分証 1	参加証 2	受講証 3	顕彰証 4	修得証* 5	修了証* 6	計
L大学	0	0	0	0	1	1	2
M大学	0	0	0	0	0	5	5
D大学	5	17	22	37	0	25	106
K大学	0	0	0	13	0	4	17
A大学	0	0	32	0	0	37	69
F大学	0	0	0	0	0	11	11
N大学	0	0	0	0	0	2	2
計	5	17	54	50	1	72	199

*印は、成績評価あり

・ 阪井 和男 (2025a), “2024年度大学ワーキンググループ報告書: オープンバッジの発行状況とメタデータ分析”, 一般財団法人オープンバッジ・ネットワーク, 2025年3月31日.

発行数と種類数(客観評価)

■ オープンバッジの発行数と種類数(阪井, 2025a, 図4, p. 6)



- 阪井 和男 (2025a), “2024年度大学ワーキンググループ報告書: オープンバッジの発行状況とメタデータ分析”, 一般財団法人オープンバッジ・ネットワーク, 2025年3月31日.



「個」を強くする大学。
We strengthen the individual.

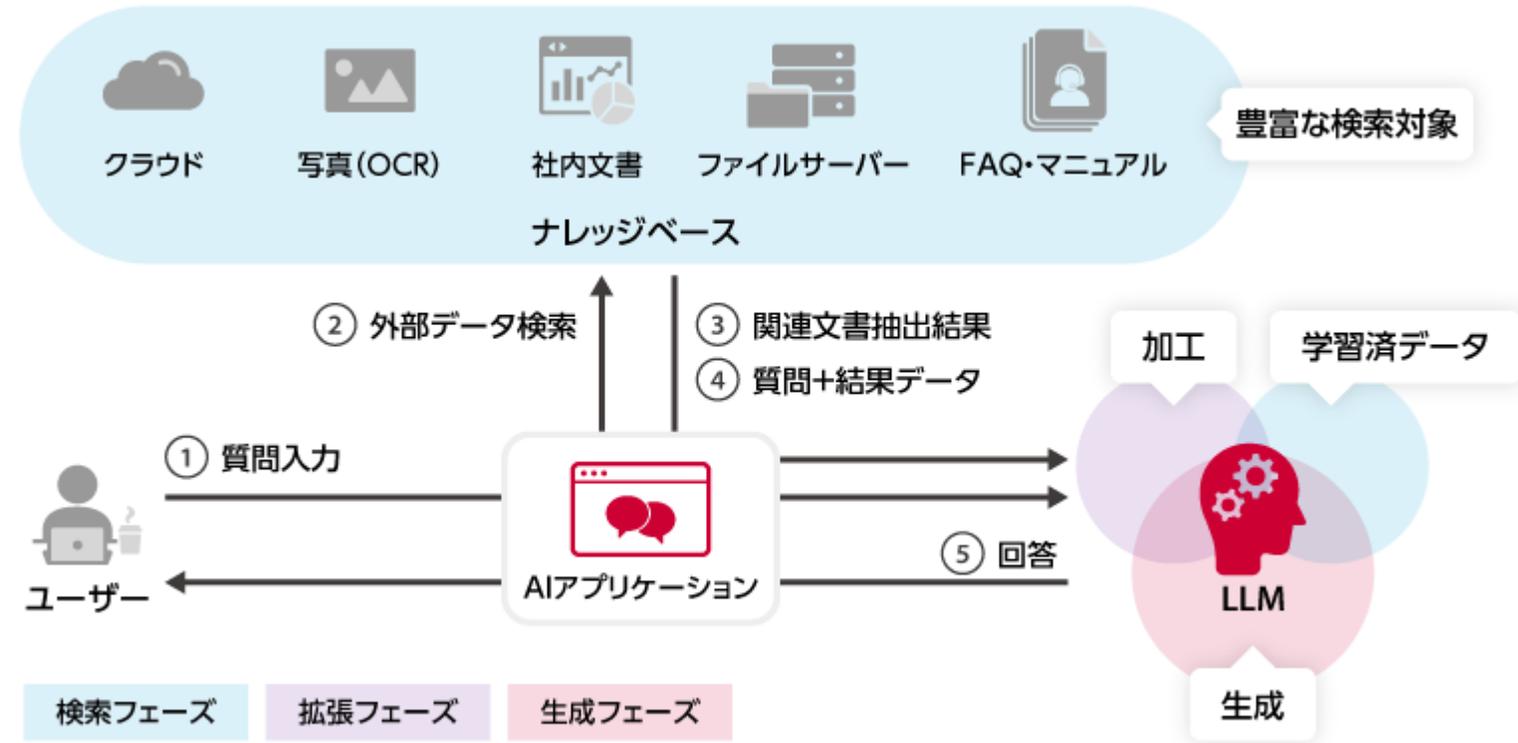


明治大学
MEIJI UNIVERSITY

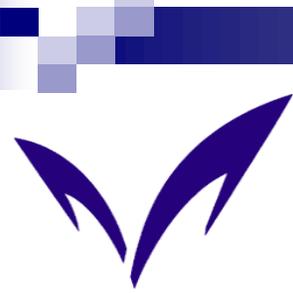
生成AIでメタデータを
分析するために

生成AIでメタデータを扱うには？

- **検索拡張生成**(RAG: Retrieval Augmented Generation)
 - 生成AIの応用範囲を大幅に拡大することが期待
 - **社内文書**などの外部データからの検索結果を学習データに組み合わせて回答を生成
 - **正確で信頼性の高い最新情報**を含む回答が可能



・ 図. RAGの回答作成フロー (docomo business Watch, NTTドコモビジネス) <https://www.ntt.com/content/dam/nttcom/hq/jp/bizon/images/glossary/rag.png> (2025年9月7日アクセス)



RAGにメタデータを活用するために

■ RAGにメタデータを**活用するメリット**

□ **検索精度向上**

- メタデータを活用することで、不要な文書を除外でき、必要情報のみを高順位で提示できる

□ **回答品質の一貫性担保**

- RAGでは、検索された文書をコンテキストとしてLLMに渡す。この際、メタデータを活用すると、回答のブレや誤情報の混入を防ぎ、一貫性と信頼性のある回答が安定して得られる

■ メタデータ**設計のポイント**

□ **スキーマの一貫性を確保**

- スキーマに一貫性がないと検索やフィルタが意図通りに機能せず、RAGの精度低下に

□ **スキーマを最小限に設計**

- シンプルかつ目的に直結したスキーマ設計にすると、長期的にRAGの精度向上につながる

- 森下 佳宏 (2025), "メタデータとは？ RAGに活用するメリット・精度向上の仕組み・注意点を徹底解説！", AI Market, BizTech, 2025年10月24日. <https://ai-market.jp/technology/rag-metadata/> (2025年11月12日アクセス)



オープンバッジ2.0のメタデータ構造

1. 発行者 issuer
2. 受領者 Recipient
3. 発行日 issuedOn
4. 名称 name
5. 発行者 issuer
6. 説明 description
7. 取得条件 criteria
(知識・スキル)

・・・ (一財)オープンバッジ・ネットワーク

・ 阪井 和男 (2025a), “2024年度大学ワーキンググループ報告書: オープンバッジの発行状況とメタデータ分析”, 一般財団法人オープンバッジ・ネットワーク, 2025年3月31日.

オープンバッジとマイクロレデンシヤルの記述子(阪井, 2025a, 表8, p. 8)

番号	オープンバッジ2.0		マイクロレデンシヤル共通記述子			
	メタデータ名	記載場所(クラス)	必選別	記述子名	英字記述子名	
1	受領者 Recipient	Assertion IdentifyObject	必須	学習者を識別する情報*	Identification of the learner	
2	発行日 issuedOn	Assertion		発行日*	Date of issuing	
3	名称 name	BadgeClass		マイクロレデンシヤル名称*	Title of the micro-credential	
4	発行者 issuer			発行機関*	Awarding body	
5	説明 description			内容*	Content/ Description	
6	取得条件 criteria			BadgeClass	学修成果*	Learning Outcomes
7					授業の方法*	Form of participation
8		学習量(総学習時間)*			Learner Effort	
9		評価の方法*			Type of assessment	
10		質保証*			Type of quality assurance	
11		単位/その他の認定*			Credit/ Other Recognition	
12	発行者 issuer	Profile	選択	発行国/地域	Country/ Region of the issuer	
13	取得条件 criteria	BadgeClass		授業言語	Language	
14				レベル	Level	
15				証明書	Certification	
16				(受講)前提条件	Prerequisites needed to enroll	
17				積み上げ可能性	Stackability	

オープンバッジとマイクロクレデンシャルの メタデータの関係

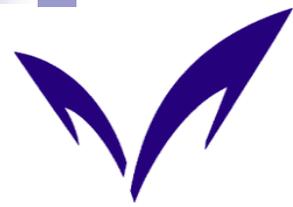
■ オープンバッジ2.0メタデータ

1. 発行者 issuer
2. 受領者 Recipient
3. 発行日 issuedOn
4. 名称 name
5. 発行者 issuer
6. 説明 description
7. 取得条件 criteria

■ マイクロクレデンシャルの詳細

8. 学修成果*
9. 授業の方法*
10. 学習量(総学習時間)*
11. 評価の方法*
12. 質保証*
13. 単位/その他の認定*
14. 授業言語
15. レベル
16. 証明書
17. (受講)前提条件
18. 積み上げ可能性

知識・
スキル



オープンバッジの特性をまとめる

■ オープンバッジの**緩い発行要件**

□ マイクロクレデンシャルによる**教育の質保証を前提にしていない**

- オープンバッジの認定レベルで、学修成果の評価と教育を質保証する「修得証」、「修了証」以外の**身分証、参加証、受講証、顕彰証**にもオープンバッジは発行可能

■ オープンバッジの**粗いメタデータ名**

□ マイクロクレデンシャル(マイクロクレデンシャル共同WG, 2024a)より**粒度が荒い**

- 両者の対応関係は、「マイクロクレデンシャルのデジタル証明をデジタルバッジで発行するためのガイドライン_ver.1.0(PDF)」(マイクロクレデンシャル共同WG, 2024b)で整理

- 阪井 和男 (2025a), “2024年度大学ワーキンググループ報告書: オープンバッジの発行状況とメタデータ分析”, 一般財団法人オープンバッジ・ネットワーク, 2025年3月31日.
- マイクロクレデンシャル共同WG (2024a), "マイクロクレデンシャルのフレームワーク(枠組み)1.0 Micro-credential Framework 1.0", 2024年3月27日. https://micro-credential-jwg.org/wp-content/uploads/2024/04/MC_frameworkver1.0.pdf (2025年2月16日アクセス)
- マイクロクレデンシャル共同WG (2024b), "マイクロクレデンシャルのデジタル証明をデジタルバッジで発行するためのガイドライン_ver.1.0(PDF)", 2024年3月27日. https://micro-credential-jwg.org/wp-content/uploads/2024/04/MC_guideline_ver1.0.pdf (2025年2月16日アクセス)



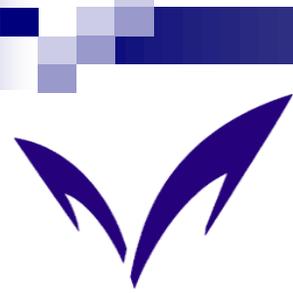
「個」を強くする大学。
We strengthen the individual.



明治大学
MEIJI UNIVERSITY

メタデータの国際通用性を 高めるために

大学WGの参加大学を対象に



マイクロクレデンシャル記述子の有効性

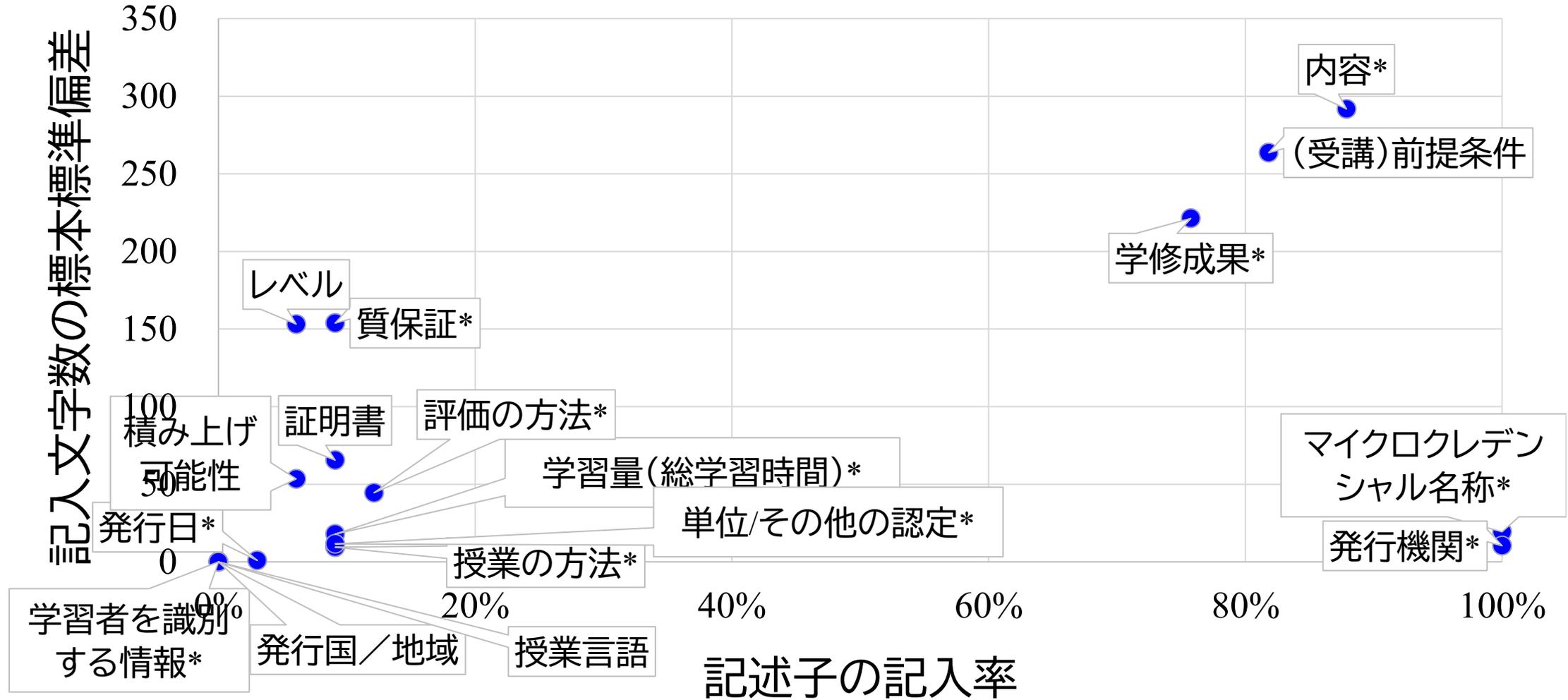
- マイクロクレデンシャル記述子は…
 - 教育用に十分な項目が含まれている
 - 生成AIのRAG用として理想的なスキーマを提供
- オープンバッジメタデータの共通記述子への分解
 - オープンバッジのメタデータ「取得条件」を、
該当する共通記述子へ手作業で分解してみると…

マイクロクレデンシャル記述子の記入率

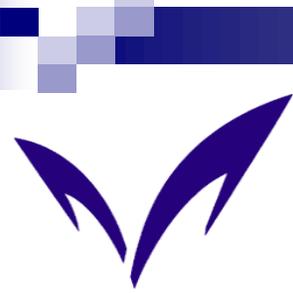
番号	記述子名(MC)	記述子の記入率	記入文字数の平均	記入文字数の標本標準偏差
1	学習者を識別する情報*	0.0%	—	—
2	発行日*	3.0%	5.0	0.9
3	マイクロクレデンシャル名称*	100.0%	37.3	19.4
4	発行機関*	100.0%	10.8	10.3
5	内容*	87.9%	396.8	291.7
6	学修成果*	75.8%	246.2	221.3
7	授業の方法*	9.1%	31.3	9.4
8	学習量(総学習時間)*	9.1%	57.0	17.9
9	評価の方法*	12.1%	119.0	44.5
10	質保証*	9.1%	422.7	153.8
11	単位/その他の認定*	9.1%	32.7	11.6
12	発行国/地域	0.0%	—	—
13	授業言語	0.0%	—	—
14	レベル	6.1%	573.0	153.1
15	証明書	9.1%	188.7	65.5
16	(受講)前提条件	81.8%	311.8	263.6
17	積み上げ可能性	6.1%	214.0	53.4

- 阪井 和男 (2025a), “2024年度大学ワーキンググループ報告書: オープンバッジの発行状況とメタデータ分析”, 一般財団法人オープンバッジ・ネットワーク, 2025年3月31日.

記入率と記入文字数のバラつき



• 阪井 和男 (2025a), “2024年度大学ワーキンググループ報告書: オープンバッジの発行状況とメタデータ分析”, 一般財団法人オープンバッジ・ネットワーク, 2025年3月31日.



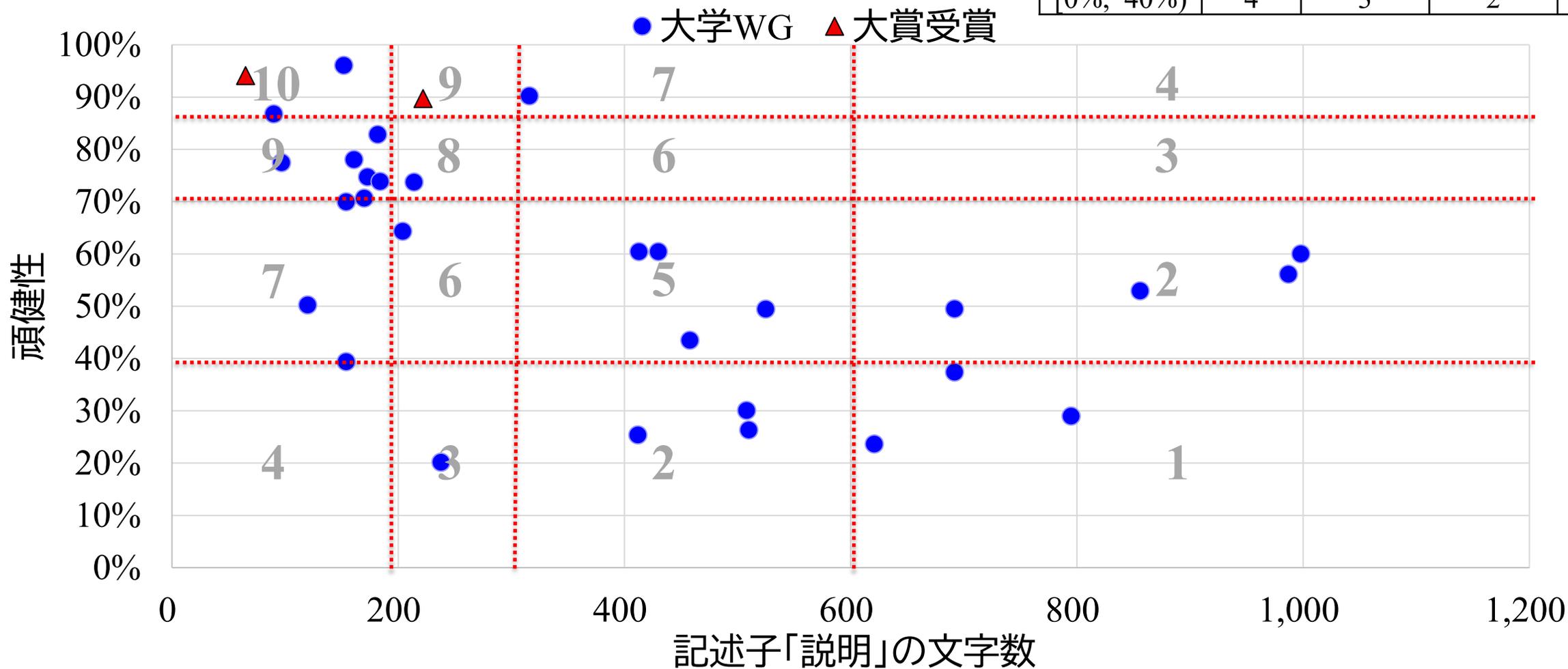
国際通用性の観点:「頑健性」を定義する

- 共通記述子の国際通用性
 - マイクロクレデンシャルの記述子「内容*」が必須でない国がある
 - メタデータが国際的に流通する中で「内容*」が欠落することを前提とせよ!
- 記述子「内容*」の欠損に対するメタデータの頑健性
 - もしマイクロクレデンシャルの記述子「内容*」に相当する「説明」項目が欠損した場合、どの程度の情報が失われるか
 - 全記入文字数にたいして、記述子「内容*」(説明)が欠損した場合のメタデータ文字数の割合を、**メタデータの「頑健性」**とする
 - **頑健性が高いと欠損データの割合が少ない**ことを意味する



国際通用性の頑健性評価

頑健性	「説明」の文字数			
	[0, 200]	(200, 300]	(300, 600]	(600, -)
[85%, 100%]	10	9	7	4
[70%, 85%)	9	8	6	3
[40%, 70%)	7	6	5	2
[0%, 40%)	4	3	2	1



• 阪井 和男 (2025b), “オープンバッジのメタデータを構造的に書く”, 一般財団法人オープンバッジ・ネットワーク, 2025年9月17日.



国際通用性の頑健性評価

		「説明」の文字数			
		[0, 200]	(200, 300]	(300, 600]	(600, -)
頑健性	[85%, 100%]	10	9	7	4
	[70%, 85%)	9	8	6	3
	[40%, 70%)	7	6	5	2
	[0%, 40%)	4	3	2	1

- 記述子「説明」の文字数が200文字以下で、かつ頑健性が85%以上（「説明」の記入文字数の割合が15%以下）である10ポイント評価の部分（表2の桃色背景のセル）を目標
- 300文字以下で頑健性が70%以上の8～9ポイント評価の部分も許容される（表2の薄黄色背景のセル）

• 阪井 和男 (2025b), “オープンバッジのメタデータを構造的に書く”, 一般財団法人オープンバッジ・ネットワーク, 2025年9月17日.

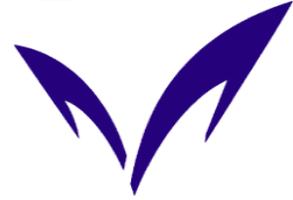


「個」を強くする大学。
We strengthen the individual.



明治大学
MEIJI UNIVERSITY

まとめ



まとめ

- オープンバッジの発行戦略
 - 4象限モデル(主観評価): すべての象限に分散
 - 認定レベル(客観評価): 種類と発行とも2桁の違いあり
- 生成AIでメタデータを分析するために
 - オープンバッジのメタデータを構造的に書く
 - 構造: マイクロレデンシヤル共通記述子に合わせる(教育用)
- 国際通用性を高めるために
 - メタデータ「説明」を書きすぎないこと
 - 記述子「説明」の文字数が200文字以下で、かつ、頑健性が85%以上(「説明」の記入文字数の割合が15%以下)を目標
 - 300文字以下で頑健性が70%以上の8~9ポイント評価の部分も許容
 - 英文でも表記すること

・ 阪井 和男 (2025b), “オープンバッジのメタデータを構造的に書く”, 一般財団法人オープンバッジ・ネットワーク, 2025年9月17日.



「個」を強くする大学。
We strengthen the individual.



明治大学
MEIJI UNIVERSITY

補遺：メタデータの実際 サイバー大学(A大学) (2024年第2回オープンバッジ大賞)

メタデータURL:

<https://www.openbadge-global.com/ns/portal/openbadge/issuers/MHhRKzNVY2x5MDVaeEZSdGc3ODY0UT09/badges/SytGMXkrWW9kWEF6MkxGMFRtQ1NUQT09>

AI応用基礎レベル/AI Advanced Literacy level Ver. 1

■ 【発行者】 [サイバー大学 Cyber University](#)

■ 【説明】

- このバッジの保有者はサイバー大学の教育プログラム「AI応用基礎レベル」(文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」(応用基礎レベル)認定)を修了したことを証明します。This badge certifies that the holder has completed the Cyber University's "AI Advanced Literacy Level" (approved as the Ministry of Education's Advanced Literacy Level of "Mathematics, Data Science, and AI Education Program")

■ 【取得条件】

■ 学修成果 Learning outcomes

- AI(人工知能)に関連する基礎的な技術、手法について説明できる
- 機械学習の知識に基づき、さまざまなデータの収集、分析手法の選択や適用および分析結果の解釈ができる
- AI関連手法を用いたアプリケーション開発やデータ分析のためのコーディングができる (ITSSレベル2~3相当)

The badge holders are able to Explain basic technology and methods related to AI (Artificial Intelligence).

Collect different types of data, select and apply methods of analysis, and interpret the results of the analysis, based on knowledge of machine learning.

Develop applications using AI-related methods and code for data analysis. (Equivalent to ITSS Level 2-3)

■ 授業の方法 Form of participation

- オンライン・非同期型学習 On Demand e-Learning

■ 学習量(総学習時間) Learner Effort

- 授業時間240 時間相当、総学習時間720時間相当 720 hours including 240 hours of class time

■ 評価の方法 Type of assessment

- 授業内の演習を含む課題とオンライン顔認証・顔監視による期末試験の総合評価

Comprehensive evaluation based on in-class assignments and online face authentication/monitoring during the final examination

■ 質保証 Type of quality assurance

- サイバー大学内部質保証基本方針に基づき、内部質保証を実施。外部質保証として、公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を定期的に受審。詳細および最新の受審状況は以下参照

<https://www.cyber-u.ac.jp/about/self-check.html>

マイクロクレデンシャル共同WG、マイクロクレデンシャルのフレームワーク(枠組み) に準拠する

<https://micro-credential-jwg.org/>

Internal quality assurance is conducted based on Cyber University's internal quality assurance policy, and external quality assurance is regularly conducted through institutional university accreditation evaluations by JIHEE, available at

<https://www.cyber-u.ac.jp/about/self-check.html>

The Micro-credential Joint WG, Micro-credential Framework will be followed

<https://micro-credential-jwg.org/>

■ レベル Level

- 大学レベル(教育資格枠組み(試案)Level 6相当 <https://niadqe.jp/news/6086/>)
MDASH応用基礎レベル

https://www.cyber-u.ac.jp/faculty_course/open_badge/badge_level.html

MDASH Advanced Literacy

University level (equivalent to Japanese Educational Qualifications Framework (tentative) Level 6 <https://niadqe.jp/news/6086/>).

https://www.cyber-u.ac.jp/faculty_course/open_badge/badge_level.html

■ 証明書 Certification

- 証明書をデジタル発行する マイクロクレデンシャル共同WG、マイクロクレデンシャルをデジタル発行するためのガイドラインに準拠する。

<https://micro-credential-jwg.org/>

Issuing certificates digitally The Micro-credential Joint WG, Guidelines for Issuing Micro-credentials Digitally will be followed

<https://micro-credential-jwg.org/>

■ 単位/その他の認定 Credit/ Other Recognition

- 16単位 16 credit hours

■ (受講)前提条件 Prerequisites needed to enroll

- 「ITとビジネスのための基礎数学」「データサイエンスのための確率統計」「C言語で学ぶアルゴリズムとデータ構造」「IoT入門」「データサイエンス応用(旧 統計解析とデータマイニング)」「AIアルゴリズム」「AIプログラミング」「ゼミナール(AI)」の全科目で単位を修得する

To earn this badge, the holder must have earned credits for all courses in MATH201 Basic Mathematics for IT and Business, MATH251 Probability and Statistics for Data Science, CS253E Algorithm and Data Structure in C Language, CS201 Introduction to IoT (Internet of Things), CS356E Advanced Data Science, CS353 AI Algorithms, CS354E AI Programming, TH401E Seminar (AI Technology)

■ 積み上げ可能性 Stackability

- サイバー大学のオープンバッジ体系図を参照

https://www.cyber-u.ac.jp/pdf/faculty/curriculum_map_mc.pdf#page=5

Refer to the Open Badge System Diagram of Cyber University

https://www.cyber-u.ac.jp/pdf/faculty/curriculum_map_mc.pdf#page=5

■ 【スキル】

- データサイエンス, データエンジニアリング, 人工知能, AI, IoT, 機械学習, データ分析, 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度, 応用基礎レベル



「個」を強くする大学。
We strengthen the individual.



明治大学
MEIJI UNIVERSITY

補遺：メタデータの実際

日立ゴム工業株式会社

(2025年第3回オープンバッジ大賞)

メタデータURL:

<https://wallet.openbadge.net/public/credential/9b6a5984-eaea-89cb-87c8-019763189c4b>

【住友ゴム】DXリテラシー／DX Literacy

■ 【発行団体】住友ゴム工業株式会社

■ 【受領者名】DX人材育成事務局

■ 【発行日】2025/06/12

■ 【説明】

- このオープンバッジの保有者は、住友ゴムグループが進めるDX人材育成プログラムにおいて、「DXリテラシーコース」を修了したことを証明します。This open badge certifies that the holder has completed "DX Literacy Course" in the DX talent development program promoted by the Sumitomo Rubber Group.

■ 【取得条件】

- DX人材育成プログラム「DXリテラシーコース」を修了:
- 以下の動画講座を視聴し、各講座のテストに合格すること
 - DXファーストステップコース
 - AI/クラウド/IoT入門コース
 - IT・ソフトウェア基礎コース
- 以下の集合研修への参加
 - DX体験ワークショップ

■ 必須講座の学習時間合計:12時間

- Completed "DX Literacy Course" in the DX talent development program:
- Watch the following video lectures and pass the tests for each lecture
 - DX First Step Course
 - AI/Cloud/IoT Introductory Course
 - IT/Software Basics Course
- Participate in the following group training
 - DX Experience Workshop
- Total required learning time for mandatory courses: 12 hours

■ 学習成果:

- DXリテラシーコースの修了者は、以下のスキルと知識を有しています:
- DXやAI/IoTが何か、どんなもので何ができるのかを理解できている
- データに基づいて意思決定／行動をすること (Data Driven) の大切さを分かっている
- 目的志向 (Issue Driven) の考え方を身に着けている
- 住友ゴムにおけるDXの取り組みを理解しており、自分事化出来ている
- 基本的な統計の考え方や平均の意味合いを理解している
- 適切なグラフ、チャートの使い方を理解している
- データを扱う際の基本的な注意点 (セキュリティ、コンプライアンス) について理解している

■ Learning Outcomes:

- Graduates of the DX Literacy Course have the following skills and knowledge:
- Understand what DX, AI, and IoT are, their capabilities, and their applications
- Recognize the importance of making decisions and taking actions based on data (Data-Driven)
- Adopt an Issue-Driven mindset (Issue-Driven)
- Understand Sumitomo Rubber's DX initiatives and can relate them to their own work
- Have a grasp of basic statistical concepts and the significance of averages
- Understand how to use appropriate graphs and charts effectively
- Comprehend the basic precautions for handling data, including security and compliance

■ 業界での位置付け:

- 本バッジは、経済産業省の「デジタルスキル標準」における「DXリテラシー標準」に準拠しており、ビジネスパーソンが必要とするDXに関する基礎知識やスキルを網羅しています。

https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/jinzai/skill_standard/main.html

■ Industry Positioning:

- This badge aligns with the "DX Literacy Standard" within the Ministry of Economy, Trade and Industry's (METI) "Digital Skill Standard," covering the foundational knowledge and skills related to DX that are essential for business professionals.

https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/jinzai/skill_standard/main.html

■ 【知識・スキル】

- AI
- ビジネス変革 / Business Transformation
- マインド・スタンス / Mindset and Stance
- 変化への適応 / Adapting to Change
- 顧客・ユーザーへの共感 / Empathy with Customers and Users
- 常識にとらわれない発想 / Out-of-the-Box Thinking
- 反復的なアプローチ / Iterative Approach
- 柔軟な意思決定 / Flexible Decision Making
- 事実に基づく判断 / Decisions Based on Facts
- Why(DXの背景) / Why(Background to DX)
- 社会の変化 / Change in Society
- 顧客価値の変化 / Changes in Customer Value
- 競争環境の変化 / Changes in the Competitive Environment
- What(DXで活用されるデータ・技術)
- What(Data and Technology Used in DX)
- 社会におけるデータ / Data in Society
- クラウド / Cloud
- データを読む・説明する / Reading and Explaining Data
- データを扱う / Handling Data
- データによって判断する / Making Judgments Based on Data
- ハードウェア・ソフトウェア / Hardware and Software
- ネットワーク / Networks
- How(データ・技術の利活用) / How(Use of Data and Technology)
- データ・デジタル技術の活用事例 / Example Uses of Data and Digital Technology
- ツール利用 / Use of Tools
- モラル / Moral issues
- コンプライアンス / Compliance
- セキュリティ / Security
- コラボレーション / Collaboration



「個」を強くする大学。
We strengthen the individual.



明治大学
MEIJI UNIVERSITY

おわり